

文芸サロン



《俳句》

自由題 七月句会

水ふくれ色現はるる緋鯉かな
 水煙四方に広がる滝の道
 万緑や人ひとり立つ流れ橋
 万緑の天突く杉に蔭の舞
 青芝をふんではしゃぐ子声高し
 万緑を分け入り進むローカル線
 碁盤目のテグスに護られ錦鯉
 溽暑なり湯屋へ憩いの人集う
 四阿に風吹きぬけて蟬時雨
 水面揺れ緋鯉と紛う藪葎草
 打ち水に素足の子らの戯れや
 万緑に一つ割り込む巨石かな
 片蔭を賑やかし過ぐ乳母車

安東 妙子
 有本 和行
 新田 和代
 宮川 蒼行
 上羽 貞弘
 日種 晁
 高田 勝
 高本 陽子
 壽 和洋
 中井 芳樹
 川村由紀子
 梶谷ゆり子
 深見 彰生

《はじめての短歌》

「哀悼歌」豪雨災害で亡くなった方へ

もういないいつもの席のあの姿堯よなせごうも
 青く輝く
 雨土に命奪われ亡き人の心の叫び誰が知り得る
 目覚めても強く窓打つ雨のおと訪れし地の無事を
 願わん
 悼むより被災地に来よ一塊の土を掻き出せ
 カナカナのこゑ
 あの笑顔あのやさしさをありがとう
 生まれ変わったも家族でいたい
 「もう少し・・・たら」「もし・・・ならば」
 無念の思い如何ばかりなむ
 亡き人の悔しき思い詠えども悲しき思い
 伝う術なし
 蟬の声夏の暑さも変わらぬに無人の住まい
 今日も帰れず
 人と地の縁を守りて住む場所で天運願ひ
 曇り空を仰ぐ
 人も家も流され去りし里山にひとときわ高く
 カナカナの鳴く

長久 美和
 渡部 啓史
 本田 博則
 安東 妙子
 慶松 美雄
 龍竹 正則
 渡部 啓史
 慶松 美雄
 本田 博則
 龍竹 正則

《川柳》

兼題句「帽子」六月句会

シルクハット被って紳士かマジシャンか
 被ってま頭の保護に被ってま
 呑みすぎを隠す帽子の深かぶり
 今日君帽子で光輝いて
 手離せぬ髪型隠す必需品
 マジックの山高帽子でハゲ隠し
 定番の麦わら帽子なつかしい
 につこりと帽子で隠す薄い髪
 想い出す麦わら帽子父の顔
 父憶う匂い滲みてたあの帽子
 合コンに帽子忘れて目立ち過ぎ
 キャップありイメージアップ男前
 剪定に麦わら帽子邪魔で脱ぐ
 新しい帽子被ってみる角度
 縮帽子あの日の君の影もなし
 キッチンで帽子寝癖の補正中
 見る位置を指示し許さぬ烏帽子岩
 帽子、靴好きな女に要注意

大串 修
 北原 裕
 安東 妙子
 川崎 貴子
 板脇 英子
 渋谷 訓生
 石井 和子
 荒井きみこ
 亀野 勝則
 小西 吹子
 奥村十九昭
 松井 美都
 壽 和洋
 稲垣のぶ久
 山本 良枝
 中井 芳樹
 原 三郎
 馬場 康子

